



1. 全ての木の葉は夏には青々と茂っているが、秋になり、気温が低くなってくると、美しく紅葉し、ついには葉を落としてしまうモミジやイチョウのような落葉樹と、緑の葉をつけたまま冬を越す常緑樹とがある。
しかし一年中葉をつけている常緑樹も、古い葉を落とし、新しい葉と入れ替わっている。
2. クスノキ、ツバキ、カン類など多くの常緑広葉樹の葉は、4月から6月にかけて新しい葉が出始めると、それと交代に古い葉が落ちる。クスノキやシラカシでは、今までつけていた葉を紅葉することなく、緑のまま一週間くらいのうちにすべて落とし、完全に新旧交代する。したがってこれらの木の葉の寿命は1年であるといえる。
3. ユズリハという常緑樹は、春に古い葉が落ちて、新しい葉に場所を譲ることに由来する。同じ常緑広葉樹でも、アラカシやタブノキなどは完全に新旧が入れ替わるのではなくて、2～3年生の古い葉が落ちていく。
4. 日本に生育する針葉樹は、カラマツを除けばすべてが常緑樹であるが、これらの落葉時期は、常緑広葉樹とは違って、落葉樹と同じ10月～12月にかけてやってくる。葉は古いものから順次落ちていくが、その年齢は樹種によって違いがあり、アカマツでは2年生の葉が、ヒノキでは6年生の葉が落葉する。
5. 常緑樹でも落葉樹でも、落葉はほぼ4～6月ないし10～12月に集中する。しかし量はあまり多くはないが、木の葉は一年中落ちている。
6. 秋に落葉するのは冬の厳しい寒さから身を守るためであることを考えると、常緑樹のように生育休止期の冬に葉をつけたまま越冬するのは無駄なようにも思えるが、冬だからといって、光合成を全くしないのではなく、暖かい日があれば、ある程度光合成は行われている。
また春先、落葉樹の葉がまだ出ていない時期から、常緑樹はすでに、活発に光合成作用ができることなど、有利なこともある。

(河原 輝彦氏)

落葉量の季節変化 (g/m²)

	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ケヤキ	0	0	0	0	0	5	5	15	5	110	250	50
	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
コジイ	5	30	20	70	95	65	10	15	15	20	15	20
	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
アカマツ	5	2	8	3	7	3	3	7	20	40	150	10

